

## 第2章 鹿児島市の自殺の現状

### 1. 10のポイント

- (1) 本市の自殺者数と自殺死亡率は、全国や鹿児島県と同様に年々減少傾向にある。
- (2) 平成28年の本市における自殺者数は、交通事故死者数の5倍に上る。
- (3) 本市の自殺死亡率は、全国の中核市の中では比較的低い(48市のうち32番目)。
- (4) 年代別の自殺者数は、多くの世代で減少傾向にあるが、20歳未満と40歳代、80歳以上においては微増している。
- (5) 年齢階級別の死因において、自殺は幅広い年齢層で上位に入っている。
- (6) 年代別・性別では、特に50、60歳代の男性の自殺死亡率が高く、かつ自殺者数も多い。80歳以上の男性の自殺死亡率も高い。
- (7) 同居人の有無別では、同居人ありの場合、男女とも20歳未満を除き全年代を通じて自殺死亡率はほぼ同率である。一方、同居人なしの場合、男性は年代を経るごとに自殺死亡率が上昇し、女性は年代を経るごとに自殺死亡率が低下する傾向がある。
- (8) 有職者と無職者の比率は、男性が44対56、女性が20対80である。
- (9) 仕事の有無別の自殺死亡率は、男性の場合、その差が大きく、無職の男性においては、年齢階級別の自殺死亡率にも大きな差がある。女性の場合、仕事の有無による自殺死亡率の差はあるが、それぞれにおける年齢階級別の自殺死亡率の差はない。
- (10) 平成24～28年の5年間で、本市において自殺者数が多い属性(性別・年代別・仕事の有無別・同居人の有無別)は、以下の3区分である。
  - I：40～59歳の男性の有職者で、同居人がいる人(自殺者全体の12.1%)
  - II：60歳以上の男性の無職者で、同居人がいる人(自殺者全体の11.1%)
  - III：60歳以上の女性の無職者で、同居人がいる人(自殺者全体の8.6%)

#### 《参考》

本計画においては、厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の両方を使用しているが、両者には以下のような違いがある。

#### (1) 調査対象の差異

「人口動態統計」は日本における日本人を対象とし、「自殺統計」は、総人口(日本における外国人も含む)を対象としている。

#### (2) 調査時点の差異

「人口動態統計」は住所地を基に死亡時点で計上し、「自殺統計」は、発見地を基に自殺死体発見時点(正確には認知)で計上している。

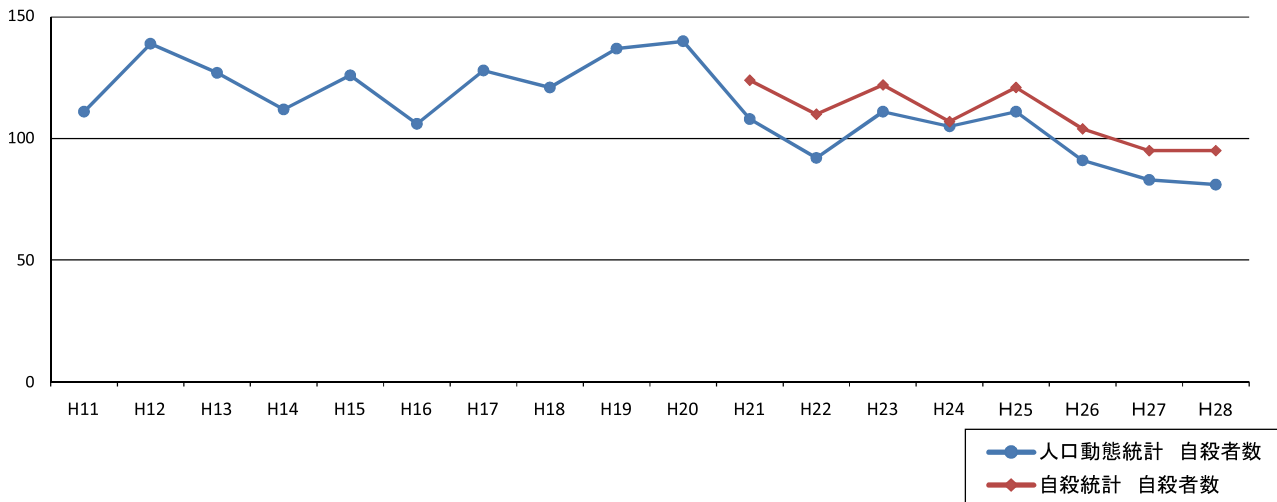
#### (3) 事務手続き上(訂正報告)の差異

「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上していない。「自殺統計」は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上している。

## 2. 自殺者数と自殺死亡率の推移

本市の自殺者数は、平成11年から20年まではほぼ横ばいで、平成21年以降は減少傾向にあり、厚生労働省の人口動態統計と警察庁の自殺統計は同様の推移を示しています。

図2：自殺者数の長期的な推移（平成11～28年）  
(人)

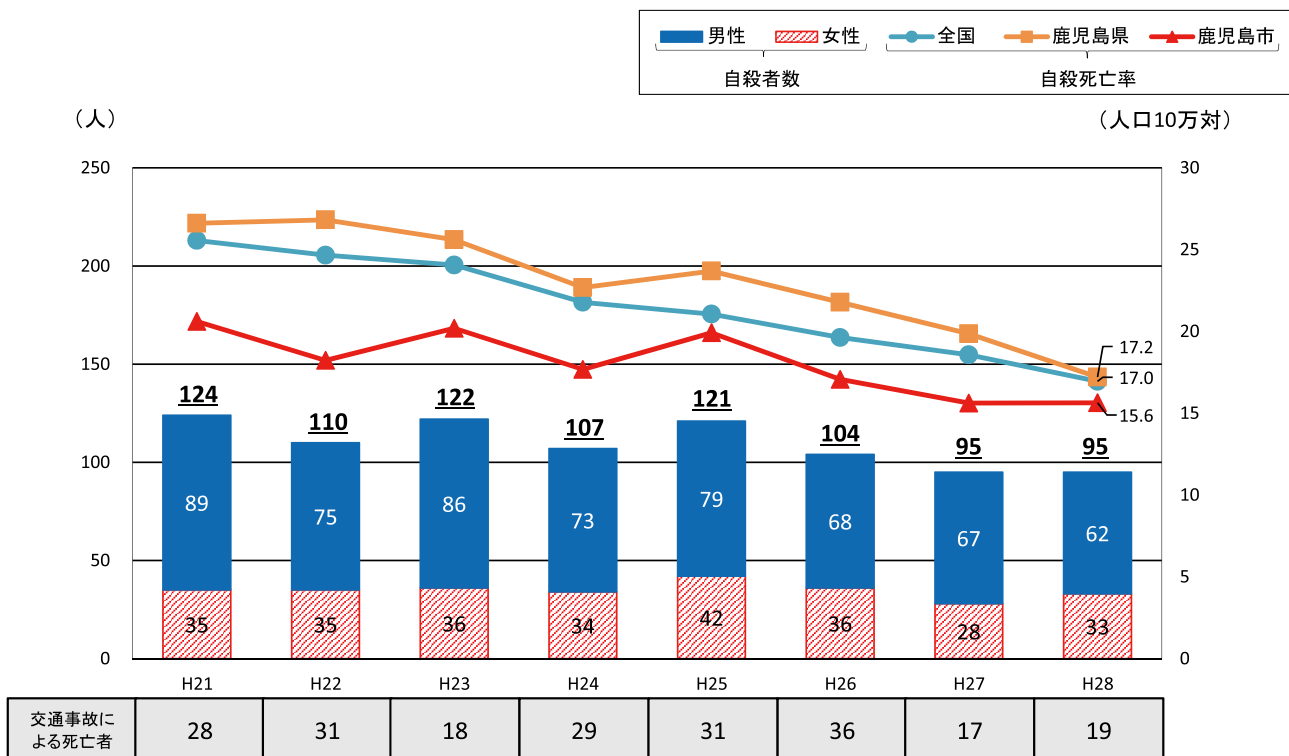


【出典】人口動態統計・自殺統計(自殺日・住居地)

平成21年以降の本市における自殺死亡率は、全国や鹿児島県の数値と同じように減少傾向にあり、かつ一貫してそれらを下回っています。

しかし、平成28年の自殺者数は交通事故死者数の5倍に上っています。

図3：自殺者数と自殺死亡率の推移（平成21～28年）



【出典】自殺統計(自殺日・住居地)

### 3. 中核市の自殺死亡率

全国の中核市（人口20万人以上）48市のうち、平成28年の本市における自殺死亡率（15.64）は32番目に高く、人口が同規模の船橋市（約62万人：自殺死亡率11.01：順位47）より高く、八王子市（約58万人：自殺死亡率17.06：順位21）よりも低くなっています。

図4：中核市の自殺死亡率

順位	自治体名	自殺死亡率	順位	自治体名	自殺死亡率	順位	自治体名	自殺死亡率	順位	自治体名	自殺死亡率
1	和歌山県和歌山市	26.38	13	北海道旭川市	18.25	25	愛知県豊橋市	16.91	37	滋賀県大津市	14.60
2	岩手県盛岡市	21.08	14	青森県八戸市	18.23	26	福島県いわき市	16.87	38	埼玉県越谷市	14.56
3	沖縄県那覇市	20.05	15	兵庫県姫路市	17.91	27	石川県金沢市	16.73	39	兵庫県西宮市	14.44
4	秋田県秋田市	19.87	16	長崎県佐世保市	17.80	28	岡山県倉敷市	16.53	40	広島県福山市	14.41
5	兵庫県尼崎市	19.61	17	福岡県久留米市	17.61	29	埼玉県川越市	15.99	41	神奈川県横須賀市	13.75
6	群馬県高崎市	19.44	18	福島県郡山市	17.41	30	大阪府枚方市	15.76	42	大阪府高槻市	13.23
7	愛媛県松山市	19.34	19	愛知県豊田市	17.28	31	栃木県宇都宮市	15.71	43	山口県下関市	13.22
8	香川県高松市	19.33	20	北海道函館市	17.12	32	長野県長野市	15.64	44	大阪府豊中市	12.41
9	長崎県長崎市	19.06	21	青森県青森市	17.06	32	鹿児島県鹿児島市	15.64	45	岐阜県岐阜市	12.32
10	富山県富山市	18.61	21	東京都八王子市	17.06	34	大分県大分市	15.02	46	奈良県奈良市	11.88
11	愛知県岡崎市	18.55	23	宮崎県宮崎市	17.01	35	千葉県柏市	14.91	47	千葉県船橋市	11.01
12	群馬県前橋市	18.27	24	高知県高知市	16.96	36	大阪府東大阪市	14.90	48	広島県呉市	9.87

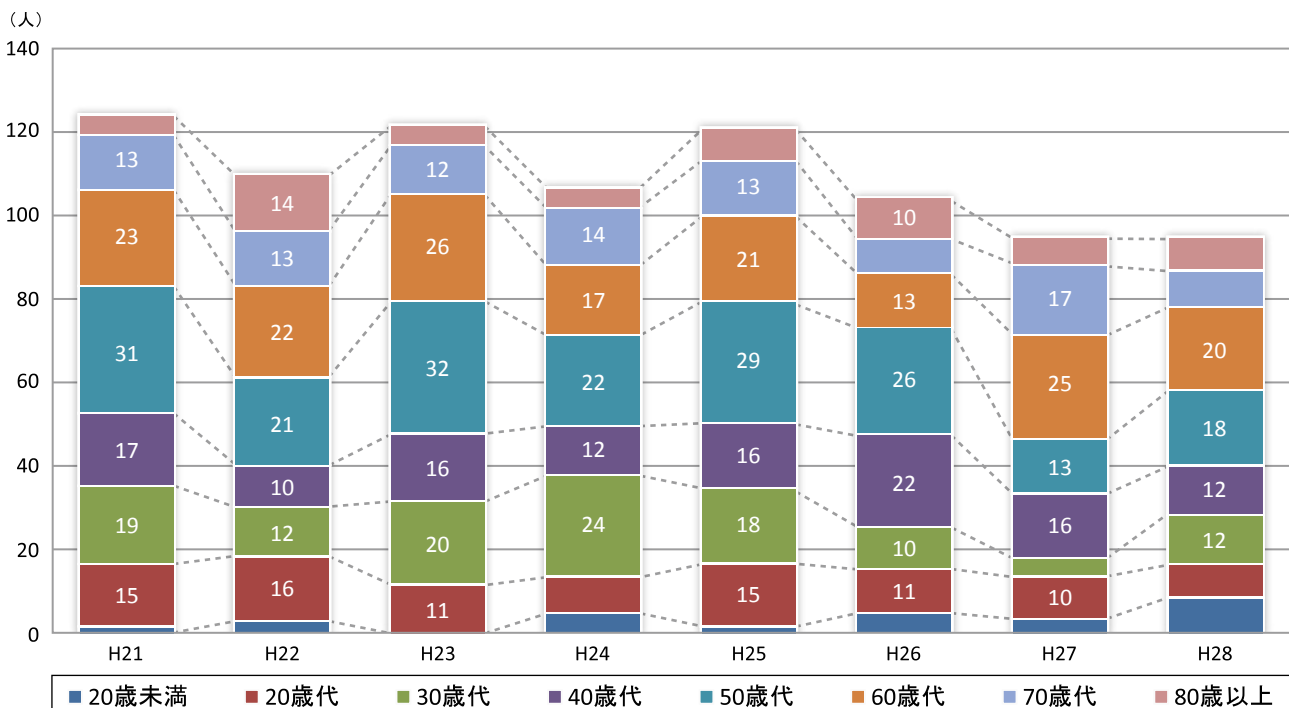
※順位をつけるため、自殺死亡率を小数点第2位まで表記している。

【出典】平成28年自殺統計／平成28年1月1日住民基本台帳（市区町村別・総人口）

### 4. 年代別自殺者数の推移

平成21年から28年の年代別自殺者数は、多くの年代で減少傾向にありますが、20歳未満と40歳代、80歳以上においては微増しています。

図5：年代別自殺者数の推移（平成21～28年）



※10人以上を表記。

【出典】自殺統計（自殺日・住居地）

## 5. 年齢階級別の死因順位

平成21年から27年の本市における年齢階級別の死因順位を見ると、自殺は幅広い年齢層で上位に入っています。特に20～34歳の若年世代においては、死因の第一位となっています。

図6：年齢階級別・死因別死亡順位（平成21～27年合計）

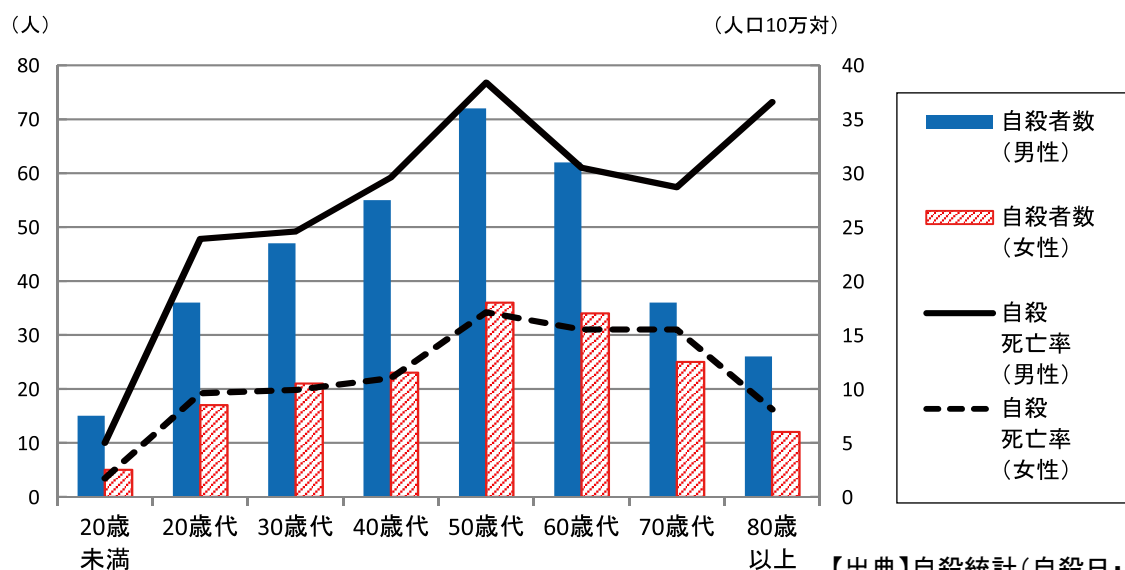
年齢(歳)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～4	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	肝疾患	肺炎、腎不全(同数)
5～9	悪性新生物	不慮の事故	肺炎		
10～14	悪性新生物	自殺、腎不全(同数)		不慮の事故	
15～19	不慮の事故	自殺	悪性新生物	心疾患、肺炎、腎不全、大動脈瘤及びかい離(同数)	
20～24	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
25～29	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
30～34	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
35～39	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
40～44	悪性新生物	自殺	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
45～49	悪性新生物	心疾患	自殺	脳血管疾患	不慮の事故
50～54	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
60～64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
65～69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
70～74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
75～79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80～84	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故
85～89	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	腎不全
90～	心疾患	肺炎	脳血管疾患	悪性新生物	老衰
合計	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故

【出典】「かごしま市の保健と福祉」H21～27年

## 6. 年代別・性別の自殺死亡率と自殺者数

本市における年代別・性別の自殺では、50、60歳代の男性の自殺死亡率が高く、自殺者数も多くなっています。また、80歳以上の男性の自殺死亡率も高くなっています。

図7：年代別・性別自殺死亡率（平成24～28年平均）と自殺者数（平成24～28年合計）

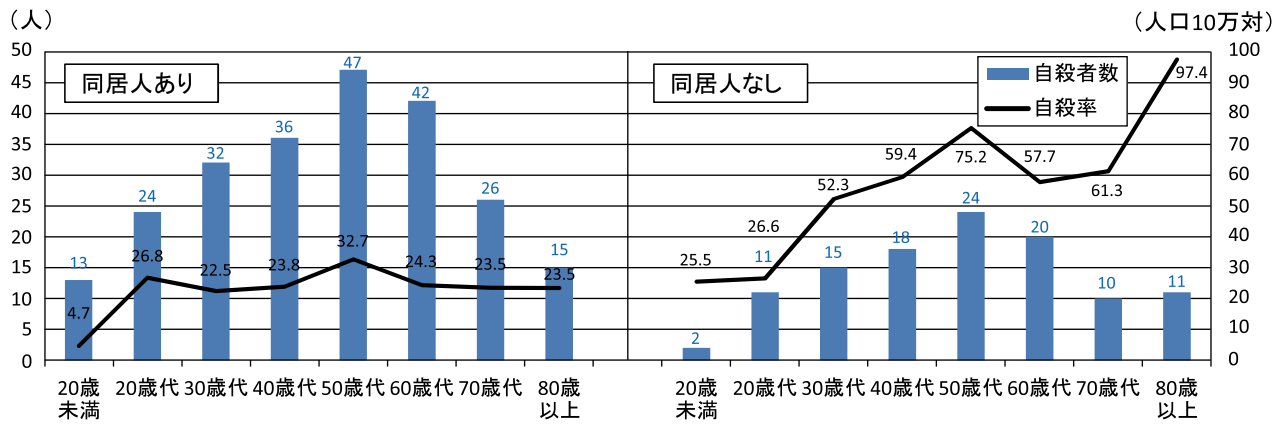


【出典】自殺統計(自殺日・住居地)

## 7. 同居人の有無別・性別・年代別の自殺死亡率と自殺者数

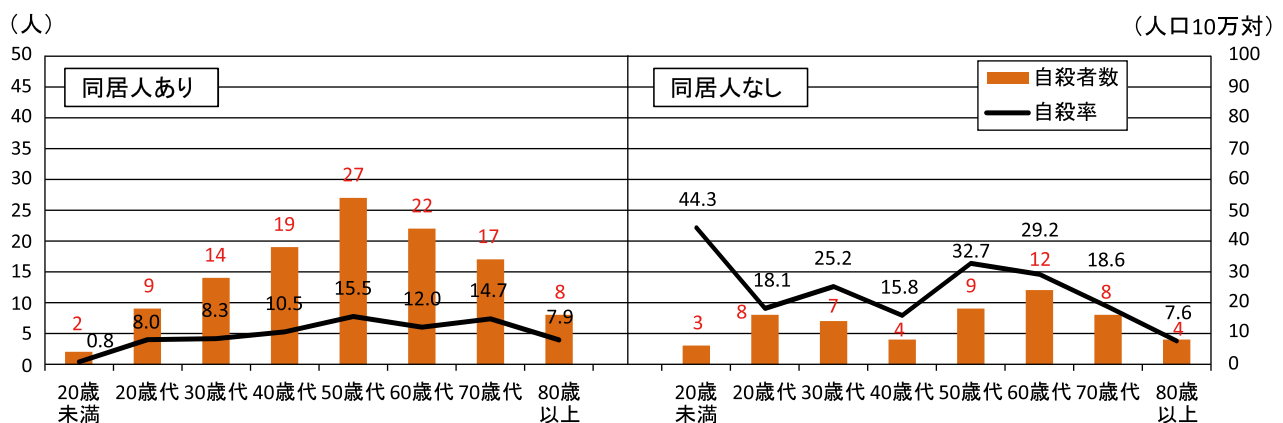
男女とも、「同居人あり」は20歳未満を除き、全年代を通じて自殺死亡率がほぼ同率ですが、「同居人なし」は、男性は年代を経るごとに自殺死亡率が上昇し、女性は年代を経るごとに自殺死亡率が低下する傾向があります。

図8：【男性】同居人有無別・年代別自殺死亡率（平成24～28年平均）と自殺者数（平成24～28年合計）



【出典】自殺統計(自殺日・住居地)

図9：【女性】同居人有無別・年代別自殺死亡率（平成24～28年平均）と自殺者数（平成24～28年合計）

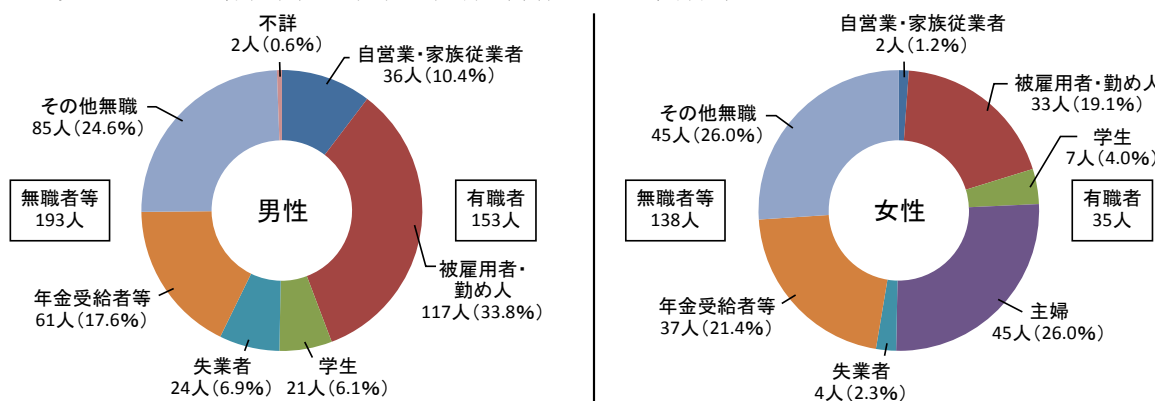


【出典】自殺統計(自殺日・住居地)

## 8. 男女別にみた有職者と無職者の割合とその内訳

有職者と無職者の比率は、男性が44対56、女性が20対80となっています。

図10：男女それぞれの有職者／無職者の割合（平成24～28年合計）



【出典】自殺統計(自殺日・住居地)

## 9. 仕事の有無別・性別・年齢階級別の自殺死亡率

男性の場合、仕事の有無による自殺死亡率の差が大きく、無職の場合は年齢階級別においても大きな差があり、特に40歳～59歳において高くなっています。一方、女性の場合、仕事の有無による自殺死亡率の差はあるものの、年齢階級別の差はありません。

図11：【男性】仕事の有無別・年齢階級別自殺死亡率（平成24～28年平均）  
（人口10万対）

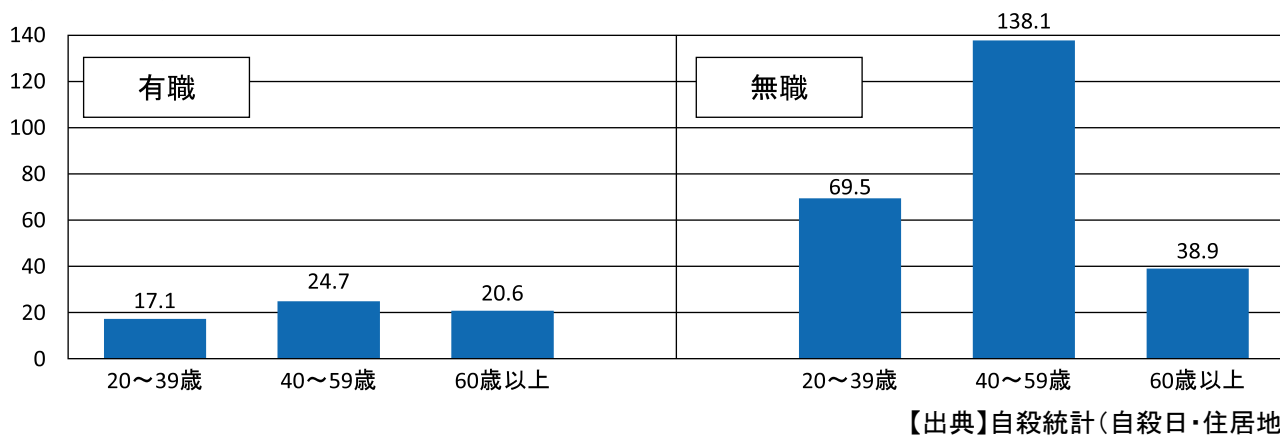
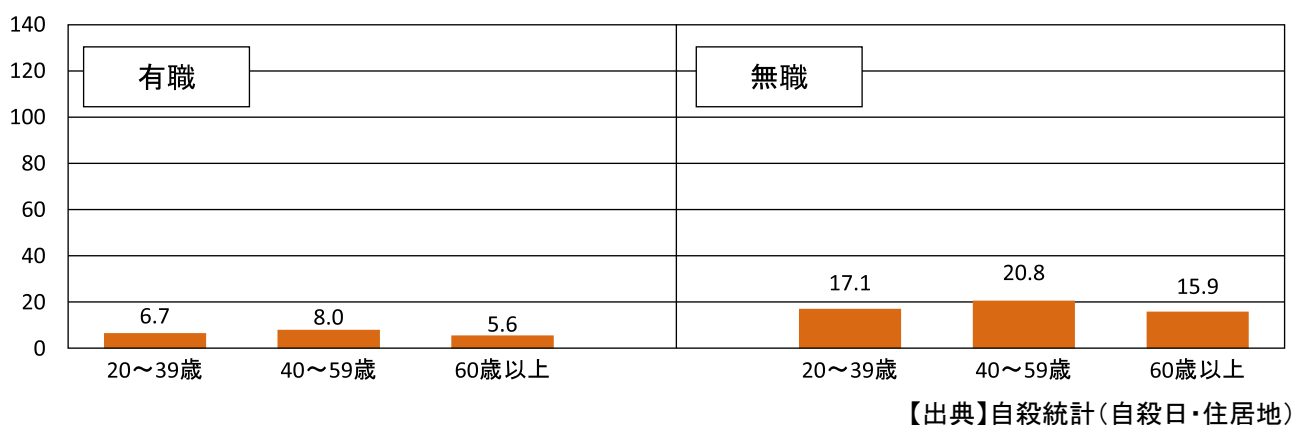


図12：【女性】仕事の有無別・年齢階級別自殺死亡率（平成24～28年平均）  
（人口10万対）



## 10. 対策が優先されるべき対象群

図13：本市の自殺の主な特徴

上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率 (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位：男性40～59歳有職同居	63	12.1%	23.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み +仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位：男性60歳以上無職同居	58	11.1%	30.6	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ) +身体疾患→自殺
3位：女性60歳以上無職同居	45	8.6%	15	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位：女性40～59歳無職同居	35	6.7%	19	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病 →自殺
5位：男性60歳以上無職独居	32	6.1%	76.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺

- ・国勢調査（総務省）、人口動態統計（厚生労働省）、人口推計（総務省）、自殺統計原票データ（自殺総合対策推進センター、厚生労働省自殺対策推進室にて特別集計）を使用し自殺の危機経路については、「自殺実態白書2013」（NPO法人ライフリンク）を参考に、自殺総合対策推進センター作成。
- ・自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。
- ・鹿児島市の自殺者数はH24～28合計522人（男性349人、女性173人）自殺統計（自殺日・住居地）
- ・自殺死亡率の母数（人口）はH27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計。